



道の駅尾瀬かたしながオープンしました!!

片品村むらづくり観光課／道の駅尾瀬かたしな

■ 県内32番目の道の駅オープン

2018年7月21日、群馬県内では32番目の道の駅として、国道120号線沿い、片品村役場隣に『道の駅尾瀬かたしな』がオープンいたしました。

オープン当日は記念イベントとして、友好関係のある埼玉県蕨市からの記念品(蕨双子織で製作した「のれん」)贈呈式、大抽選会、餅投げ、ステージ発表などが催され、県内外から大勢のお客様で会場は大賑わいでした。

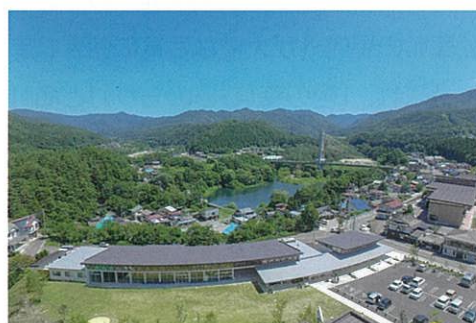
◆ 『道の駅尾瀬かたしな』について

『道の駅尾瀬かたしな』は、沼田市と栃木県日光市を結ぶ国道120号線沿い、片品村の中心地となる片品村役場の北側に位置し、尾瀬国立公園の稜線をはじめ、片品の里山風景を目の当たりにすることができる場所にあります。

この道の駅には、片品村の標高の高さと冷涼な気候のおかげで収穫できるトマトやトウモロコシ、舞茸などの新鮮な高原野菜の販売する「農産物直売所かたしな屋」をはじめ、これら片品村産高原野菜をふんだんに使い、地元産小麦と名水百選に選ばれた水を使って作る尾瀬名水うどんが自慢の「かたしな食堂」、地元のシェフや主婦が週替わりで自慢の料理を提供する「村民キッチン」、花豆・トマト・リンゴソフトクリームや焼きトウモロコシが楽しめる「スナックコーナー」、尾瀬の稜線などを眺められる「展望テラス&足湯」、芝生や水遊び場、砂遊び場などがある「813(はちいちさん)広場」、24時間誰でも使えるトイレ(ベビーコーナー及びマウスウォッシュコーナー併設)、さらには名水百選に選ばれた湧き水を自由に汲んで持ち帰ることができる「水くみ場」などがあります。



大賑わいのオープニングイベント



道の駅(本体建物)全景



朝どれ新鮮野菜が並ぶ農産物直売所

■ コンセプトは、「つなげる」「伝える」「賑わう」

この道の駅が整備された一番の目的は、地域経済振興による雇用創造にあります。村の総合計画策定のための住民アンケートによると、多くの住民が若者世代の働ける場所を望んでいる声が多いことがわかりました。

道の駅という情報発信拠点ができたとにより、片品村を訪れるお客様と住民とをつなげ、お客様に片品村のすばらしさを伝えることによって、賑わいのある地域となるための原動力となること、そして結果的に新たな雇用が創出され、将来も輝き続ける村になることを目指しています。



片品の名水でこね上げる「名水うどん」

